

2026 年度 大学院入学試験問題（A 日程）（解答時間 90 分）
修士課程 臨床心理学専攻

科目	専門および 英語	受験 番号		氏名	
----	-------------	----------	--	----	--

I. 次の文章の（ ）の中に入る最も適切な言葉を、3 ページにある「選択肢群」から選択し、その番号を解答用紙の解答欄に記入しなさい。

1. HTP 法は（ ）によって考案された。
2. SSRI の使用により自殺などの衝動行為の危険性が増加したり、攻撃性亢進が見られる状態を（ ） syndrome といい、特に 10 歳代の子どものうつ病に用いた場合に起こりやすい。
3. MMPI-3 の臨床尺度は、（ ）尺度、再構成臨床尺度、特定領域の問題尺度とパーソナリティ精神病理 5 尺度の三層構造になっている。
4. エリクソン（Erikson, E. H.）は、小学校に通い始め、集団生活への適応や学習が生活の中心となる児童期の発達のテーマを（ ） vs 劣等感とした。
5. 家族療法の多世代理論を開発した（ ）は、ジェノグラムを描き、少なくとも 3 世代の観点から家族の問題を理解することを推奨している。
6. 記憶力や注意力などの認知機能に低下がみられるが、日常生活に支障をきたすほどではない状態を（ ）といい、正常な状態と認知症の中間の状態である。
7. グリュンワルド（Grünwald, M.）の空間図式（空間象徴）では、用紙の左側は（ ）を表すと考えられている。

8. 自分の行動や考えなどが、自分の意志ではなく、自分ではない何者かによって支配されていると感じる（ ）という症状は、統合失調症の代表的な症状の1つであり、自我の能動性がうすれた自我障害に起因する。
9. 社会的学習理論の中核概念である（ ）は、もともとは実験課題を達成することができそうかという遂行可能性を実験参加者に尋ねるものであった。
10. 当初行動療法は、オペラント条件づけや行動的側面を重視し、レスポナント条件づけの技法の1つである（ ）に対する否定的な見解も存在した。
11. フロイト (Freud, S.) は、こころはエス・自我・超自我からなる心的装置であるとする（ ）を唱えた。
12. 森田正馬が提唱した、自身の不快や苦痛をどうにかしなければと思うことで過度に気にしてそのことにとらわれてしまう性格傾向を（ ）という。
13. 養育者が自分の子どもに愛情や慈しみの感情が湧かず、子どもを世話し、守りたいという感情が弱く、イライラしたり、さらには攻撃したくなる衝動が出てくる状態を（ ）という。
14. レスポナント条件づけにおける消去とは、（ ）刺激が呈示されなくなったことで条件反応が起こらなくなることである。
15. （ ）は、スピールバーガー (Spielberger, C. D.) によって開発された不安を測定する心理検査である。

選択肢群

1	アタッチメント障害	20	トークンエコノミー
2	仮性認知症	21	内向
3	局所論	22	ヒポコンドリー性基調
4	勤勉性	23	ボンディング障害
5	系統的脱感作法	24	未来
6	軽度認知障害	25	無条件
7	幻聴	26	メランコリー親和型性格
8	高次	27	妄想知覚
9	構造論	28	力動論
10	コンピテンス	29	activation
11	させられ体験	30	dopamine dysregulation
12	シェイピング	31	serotonin
13	自主性	32	BDI
14	自発的回復	33	MAS
15	執着性格	34	STAI
16	条件	35	バーンズ (Burns, R. C.)
17	セルフエフィカシー	36	バック (Buck, J. N.)
18	妥当性	37	ボーエン (Bowen, M.)
19	父親	38	ミニューチン (Minuchin, S.)

II. 以下の文章を読み、解答を選択し、その番号を解答用紙の解答欄に記入しなさい。

WAIS-IVの指標と下位検査の組み合わせとして最も関連のある組み合わせはどれか。適切な組み合わせを1つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- | | |
|---------------|--------|
| ① 言語理解指標 | － 算数 |
| ② 知覚推理指標 | － パズル |
| ③ 視空間指標 | － 類似 |
| ④ ワーキングメモリー指標 | － 符号 |
| ⑤ 処理速度指標 | － 積木模様 |

Ⅲ. 以下の文章を読み、設問に答えなさい。解答は解答用紙に記述すること。

ある大学の心理学部の学生全員に数学、国語、英語の試験を行った。試験実施の際は、各学生が高校時代に文系であったか理系であったかをあわせて尋ねた。各学年とも人数は 40 名であり、いずれの学年も文系と理系が 20 名ずつであった。また、得点分布を歪ませるような極端な得点を示した学生はいなかった。

次のページには、試験得点の記述統計表（学年と高校時代の理系/文系別に集計）を示している。また、統計ソフトを用いて、各科目の得点の平均値について、学年及び理系/文系による差を分析した結果も示している。なお、HAD による結果と SPSS による結果の両方を記載しているが、結果はいずれも同じである。

次のページに示された情報を踏まえて、以下の設問に答えなさい。ただし、有意水準は 5%に設定し、有意傾向は採用しないものとする。

1. 下線部の分析に該当するものを選択肢から 1 つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。
 - ① 1 要因分散分析
 - ② 2 要因分散分析
 - ③ 3 要因分散分析
 - ④ 対応のある t 検定
 - ⑤ 対応のない t 検定
2. 今回の試験を受けた 1 年生の A さんの得点は、数学が 75 点、国語が 80 点、英語が 75 点であった。1 年生の中で得点による順位づけを行った時、A さんの順位が最も高くなると考えられる科目はどれか。科目名を解答欄に記入しなさい。
3. 4 年生において、得点の散らばりが最も大きい科目はどれか。科目名を解答欄に記入しなさい。
4. 分析の結果から、単純主効果検定を行う必要があると判断される科目はどれか。科目名を解答欄に記入しなさい。
5. 分析の結果から、多重比較を行う必要があると判断される科目はどれか。科目名を解答欄に記入しなさい。

試験得点の記述統計表

		1年生		2年生		3年生		4年生		全体	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
数学	理系	58.10	(5.88)	56.20	(5.91)	56.05	(5.44)	55.35	(5.28)	56.43	(5.62)
	文系	66.70	(7.37)	67.40	(5.86)	66.55	(5.56)	65.15	(6.81)	66.45	(6.37)
	全体	62.40	(7.89)	61.80	(8.12)	61.30	(7.60)	60.25	(7.80)	61.44	(7.82)
国語	理系	51.60	(32.20)	79.65	(32.66)	83.10	(34.27)	92.15	(37.80)	76.63	(36.94)
	文系	50.00	(28.48)	66.40	(36.65)	68.80	(29.94)	85.25	(39.48)	67.61	(35.59)
	全体	50.80	(30.01)	73.03	(34.92)	75.95	(32.58)	88.70	(38.31)	72.12	(36.44)
英語	理系	49.05	(24.86)	63.05	(21.51)	59.45	(23.41)	69.75	(26.04)	60.33	(24.73)
	文系	67.50	(20.90)	56.15	(20.17)	66.40	(17.84)	58.85	(25.71)	62.23	(21.50)
	全体	58.28	(24.52)	59.60	(20.87)	62.93	(20.84)	64.30	(26.13)	61.28	(23.12)

HAD による分析結果

数学の分析結果

変数名	SS	MS	MSe	偏η ²	95%CI	F 値	df1	df2	p 値	
学年	56.319	18.773	25.923	.014	.000, .051	0.724	3	152	.539	
理系文系	2584.056	2584.056	25.923	.396	.271, .483	99.681	1	152	.000	**
学年*理系文系	129.769	43.256	25.923	.032	.000, .086	1.669	3	152	.176	

国語の分析結果

変数名	SS	MS	MSe	偏η ²	95%CI	F 値	df1	df2	p 値	
学年	3041.769	1013.923	524.133	.037	.000, .094	1.934	3	152	.126	
理系文系	43.056	43.056	524.133	.001	.000, .027	0.082	1	152	.775	
学年*理系文系	4247.719	1415.906	524.133	.051	.000, .115	2.701	3	152	.048	*

英語の分析結果

変数名	SS	MS	MSe	偏η ²	95%CI	F 値	df1	df2	p 値	
学年	25520.225	8506.742	282.513	.373	.241, .458	30.111	3	152	.000	**
理系文系	570.025	570.025	282.513	.013	.000, .067	2.018	1	152	.158	
学年*理系文系	202.725	67.575	282.513	.005	.000, .023	0.239	3	152	.869	

SPSS による分析結果

被験者間効果の検定

従属変数: 数学

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	偏イータ 2 乗
修正モデル	2770.144 ^a	7	395.735	15.266	<.001	.413
切片	613924.506	1	613924.506	23682.293	<.001	.994
学年	56.319	3	18.773	.724	.539	.014
理系文系	2584.056	1	2584.056	99.681	<.001	.396
学年 * 理系文系	129.769	3	43.256	1.669	.176	.032
誤差	3940.350	152	25.923			
総和	620635.000	160				
修正総和	6710.494	159				

a. R2 乗 = .413 (調整済み R2 乗 = .386)

従属変数: 国語

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	偏イータ 2 乗
修正モデル	7332.544 ^a	7	1047.506	1.999	.059	.084
切片	544872.306	1	544872.306	1039.570	<.001	.872
学年	3041.769	3	1013.923	1.934	.126	.037
理系文系	43.056	1	43.056	.082	.775	.001
学年 * 理系文系	4247.719	3	1415.906	2.701	.048	.051
誤差	79668.150	152	524.133			
総和	631873.000	160				
修正総和	87000.694	159				

a. R2 乗 = .084 (調整済み R2 乗 = .042)

従属変数: 英語

ソース	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	偏イータ 2 乗
修正モデル	26292.975 ^a	7	3756.139	13.295	<.001	.380
切片	734139.025	1	734139.025	2598.601	<.001	.945
学年	25520.225	3	8506.742	30.111	<.001	.373
理系文系	570.025	1	570.025	2.018	.158	.013
学年 * 理系文系	202.725	3	67.575	.239	.869	.005
誤差	42942.000	152	282.513			
総和	803374.000	160				
修正総和	69234.975	159				

a. R2 乗 = .380 (調整済み R2 乗 = .351)

IV. 以下の文章を読み、設問に答えなさい。解答は解答用紙に記述すること。

あなたは発達支援機関に勤務するカウンセラーです。試験期間や学期末が近づくと、学習上の困難さを抱える親子が多く来談します。

ある日、中学生の親子が来談され、「心身の不調があり、登校しぶりから、出席日数や成績が不安になり、登校意欲がなえてしまいがちなこと、授業で提示される課題の提出も滞りがちで、校内では様々なグループ活動が活発なもの積極的に参加する意欲もわからない」等といった種々の困難さが語られました。

1. 発達上の困難さが背景にあると想定される場合、親子との間で、最初に確認しておくべきことは何ですか、また最初にアドバイスすることとして何がありますか。
2. 次回までに、アセスメントプランも含め、どのような対応を進めますか。

V. 以下の英文を読み，設問に答えなさい。解答は解答用紙に記述すること。

著作権上の都合により非公開

出典：Goosse.M., Perez.T.M. &Willems. S.(2025). Communication training for the provision of psychological assessment feedback: An exploratory randomized controlled study. *Training and Education in Professional Psychology*, 19, 1, pp. 14–25. （問題作成上，一部改変した）

1. 本研究が exploratory study である理由を述べなさい。
2. This exploratory study の内容を要約しなさい。目的，方法，結果の順に示すこと。